

編集後記

- ◇ 今年の夏は全国的に猛暑日が続く一方で、線状降水帯による豪雨被害も頻発し、いわゆる「異常気象」が常態化しつつあることが危惧される状況となった。本誌が読者の皆様の手に届く頃、10月には「サツマイモの日（13日）」を迎えるが、穏やかな秋晴れで豊穡の季節となることを切に願っている。
- ◇ 本誌165号では、本年3月4日に鹿児島県で開催された「かんしょ輸出産地を支えるサツマイモ基腐病総合的防除体系の開発」研究成果発表会における講演ならびに話題提供の内容を特集した。南九州で激しい被害をもたらしたサツマイモ基腐病は、関係者の懸命の努力の結果、ようやく収束しつつあるが、発生が確認された地域は全国に広がっている。本誌では公開されたマニュアルのポイント等を解説しているので、発生地域のみならず広く参考としていただきたい。
- ◇ 7月15日、秋田市で開催された秋田県さつま芋協議会発足式で記念講演に対応させていただく機会を得た。協議会のメンバーは丸果秋田県青果株式会社と県内の生産法人5団体、支援団体として秋田県農林水産部の関係課のほか、秋田銀行や地方自治体、菓子工業組合等で構成されている。巻頭言で秋田県立大学の櫻井教授も述べられているとおり、温暖化によって生育適地が北に拡大しつつあることが実感される。今後の急速な生産・販売の拡大、加工品の普及などを目指しており、今後の展開に期待したい。
- ◇ 7月18日には、茨城県水戸市で開催された「第26回寒干しフェスタ」に参加した。茨城店舗設備株式会社が、干しいも工場「IBATEN ほしいも Lab」で開催したもの。新製品の展示や工場内見学に加えて東京大学大学院生命科学研究所の渡邊健特任教授による「サツマイモに発生する病害虫・生理障害」の講演もあり、有意義なイベントであった。
特筆すべきは従来、冬期に1週間以上を要した製造期間を僅か2日間に短縮できるというシステムで製造される干しいもで、「べにはるか」の特性を十二分に引き出した、色鮮やかで柔らかく、素晴らしい仕上がりに感激した。
- ◇ 本年11月には、2つの大きなサツマイモ関係のイベントが予定されている。1つは第13回東アジア唐芋友好大会で、11日に東京農業大学の横井講堂で開催され、大会後には交流レセプションも予定されている。2つめは、沖縄県嘉手納町の野國總管甘藷伝来420年記念事業で、かでな文化センターで23日に野國總管甘藷功労賞授与式典と甘藷フォーラムが開催される。ぜひ、多くの方に参加いただきたいと思います。

（矢野哲男）

いも類振興情報 第165号

2025(令和7)年10月15日発行

定価 1部 500円

年間購読料(季刊) 2,000円

発行 一般財団法人 いも類振興会

〒107-0052 東京都港区赤坂6-10-41 ヴィップ赤坂303

TEL 03-3588-1040 FAX 03-3588-1225

E-mail: jrta@imoshin.or.jp

郵便振替 00130-1-110152

印刷 株式会社丸井工文社